

研究・調査報告書

報告書番号	担当
220	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
The association between recipient alcohol dependency and long-term graft and recipient survival. 移植患者のアルコール依存とグラフト及びレシピエント (臓器被移植者) の生存について	
執筆者	
Gueye AS, Chelamcharla M, Baird BC, Nguyen C, Tang H, Barenbaum AL, Koford JK, Shihab F, Goldfarb-Rumyantzev AS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nephrol Dial Transplant. 2007 Mar;22(3):891-8.	
キーワード	
アルコール依存、移植臓器生存、腎移植、移植者生存率	
要 旨	
背景： アルコール摂取と腎疾患の関係については明らかになっていない。動物モデルではアルコール摂取による腎機能の低下、腎肥大などが報告されている。しかし、前向きコホートでは女性では適量飲酒による腎機能との関係は認めなかった。また別のコホートでも健康な男性では多量飲酒者は腎機能低下のリスクではなかったが、適量飲酒者はクレアチニンレベルの上昇の抑制と相関した。一方で移植腎やレシピエントの生存に関する影響については全く研究がおこなわれていない。	
方法： アメリカ合衆国腎データシステム(USRDS)の1995年1月から2002年12月までに移植が行われた18歳以上のレシピエントの記録(n=60523)を調査した。USRDS データベースに収集されたChronic Renal Disease Medical Evidence Form(CMS-2728)にアルコール依存症について1カテゴリ(yes, no, unknown)で記載されている。共変量を調整したCox 回帰モデル、Kaplan-Meier 解析を用いて移植前のアルコール依存と移植腎、レシピエントの生存との関係を検討した。	
結果： 60523名がコホートに参加し、425名がアルコール依存の既往を示した。アルコール依存症者は3.9歳年齢が高く、アジア系には見られなかった。白人に比べてネイティブアメリカンで、女性に比べて男性でアルコール依存症者は3倍多く見られた。またアルコール依存症のグループでは移植腎の低温虚血時間が非依存症のものに比べて長い傾向が見られ、生体腎移植は少ない傾向が見られた。Cox モデルにおいて、アルコール依存は移植腎の廃絶のリスク増加(hazard risk=1.38, P<0.05)、レシピエントの死亡のリスク増加(HR=1.56、P<0.001)との関連が見られた。サブグループの解析では人種グループ (白人および非白人)、男性では移植腎の廃絶、レシピエントの死亡と相関を認めたが女性では認めなかった。	
結論： 腎不全末期のアルコール依存は移植腎の廃絶及びレシピエントの死亡の危険因子である。	